

【授業づくりのポイント集】

目次

01 教師の明確な意図を持つ

- 内容項目を理解するポイント 62
- 児童生徒の実態把握 63
- 教材の活用 64
- 教師の明確な意図 66

02 本時のねらいを設定する

- ねらいの設定 67

03 学習指導過程を構想する

- 導入の工夫 68
- 展開の工夫 69
- 終末の工夫 70

04 指導方法を工夫する

- 自分との関わりで考えさせる学習 71
- 問題解決的な学習 72
- 多面的・多角的に考えさせる学習 73
- 発問づくり 75
- 道徳的行為に関する体験的な学習 77
- 板書の工夫 78
- 他の教育活動との関連 79

05 子どもの学びを評価する

- 道徳科の評価 80
- 指導要録と通知表における道徳科の評価の違い 81

✓ 道徳科の授業づくり

授業づくりで最も大切なのは「教師の明確な意図」。
教師の明確な意図を基に、本時のねらいの設定や
学習指導過程の構想、指導方法の工夫等を考えよう。

STEP 01

教師の明確な意図を持つ

内容項目を理解するポイント 児童生徒の実態把握
教材の活用 教師の明確な意図

STEP 02

本時のねらいを設定する

ねらいの設定

STEP 03

学習指導過程を構想する

導入の工夫 展開の工夫 終末の工夫

STEP 04

指導方法を工夫する

自分との関わりで考えさせる学習	問題解決的な学習
多面的・多角的に考えさせる学習	発問づくり
道徳的行為に関する体験的な学習	板書の工夫
他の教育活動との関連	

STEP 05

児童生徒の学びを評価する

道徳科の評価
指導要録と通知表における道徳科の評価の違い

学習指導過程 4 つのポイント

「考え、議論する道徳」の学習指導過程を構想する際には、以下の4つのポイントを押さえることが大切です。

導入

展開

終末

道徳的価値の理解を基に

問題意識を持たせる

道徳的価値に根差した問題について、児童生徒にこれまでの経験と照らし合わせて考えさせ、ねらいとする道徳的価値について、考える必然性を持たせます。

例：ねらいとする道徳的価値をどのように捉えているか、実現できているか等について考えさせる。

導入の工夫
P.68

自分との関わりで考えさせる

ねらいとする道徳的価値について、児童生徒に自分の問題として受け止めさせ、自分の事として考えさせます。

例：教材の登場人物を自分に置き換えて考えさせる。日常生活や学校生活等を想起して考えさせる。

展開の工夫
P.69

自分との関わりで考えさせる学習
P.71

多面的・多角的に考えさせる

物事を一つの見方ではなく、様々な見方で考えさせたり、様々な角度から考察させたりすることで、ねらいとする道徳的価値についての考えを深めさせます。

例：様々な登場人物の立場で考えさせる。
ねらいとする道徳的価値を支える様々な根拠を考えさせる。

展開の工夫
P.69

多面的・多角的に考えさせる学習
P.73

自己(人間として)の生き方について考えさせる

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己(人間として)の生き方について考えを深めさせます。

例：学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめ、これからへの思いや生き方について考えさせる。

終末の工夫
P.70

内容項目を理解するポイント

✓ 児童生徒の発達段階に応じた指導



内容項目を理解するときのポイントを教えてください。

内容項目を理解するときのポイントは、**児童生徒の発達段階に応じた指導**と**計画的な指導**の2点です。

例1のように、同じ「個性の伸長」という内容項目でも、児童生徒の発達段階に応じて、**指導する内容は異なります**。小学校、中学校の指導内容を確認することが大切です。



例1 「個性の伸長」(小・中学校学習指導要領解説)

第1学年及び第2学年	自分の特徴に気付くこと
第3学年及び第4学年	自分の特徴に気付き、 <u>長所を伸ばすこと</u>
第5学年及び第6学年	自分の特徴を <u>知って</u> 、 <u>短所を改め</u> 長所を伸ばすこと
中学校	<u>自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること</u>

✓ 計画的な指導

例2の①～⑤のように、1つの内容項目に**複数の道徳的価値が含まれている**場合があります。複数の道徳的価値を1つの教材で扱うことが難しい場合は、1単位時間に指導するのではなく、小学校は低、中、高学年のそれぞれ2年間、中学校は3年間の中で計画的に指導することが大切です。



今日の授業では、「節度、節制」の「身の回りを整え」に関する部分を考えさせていく等、授業で取り扱う道徳的価値を絞って、計画的に指導していくことが大切なのですね。

例2 「節度、節制」(小学校学習指導要領解説 第1学年及び第2学年)

健康や安全に気を付け^①、物や金銭を大切にし^②、身の回りを整え^③、わがままをしないで^④、規則正しい生活をすること^⑤

参考文献

[1]	文部科学省：小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	p32 - 34	あかつき
[2]	道徳教育編集部：道徳教育 2018年 6月号	p68 - 70	明治図書

児童生徒の実態把握



道徳科における児童生徒の実態把握について教えてください。

道徳科における児童生徒の実態把握とは、**道徳的価値に根差した問題**を把握することです。専門家会議では、道徳的価値に根差した問題として、以下の4つの問題が例示されています。



専門家会議で例示された4つの問題と実態把握例

- 1 **道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題**
物を大切にしない、ルールを守らない、わがままな児童生徒が多い。
- 2 **道徳的諸価値について理解が不十分または誤解していることから生じる問題**
相手の気持ちを考えることなく、何かをしてあげることが親切と捉えている児童生徒が多い。自由とは自分の思うままに行動してよいことと捉えている児童生徒が多い。
- 3 **道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題**
あいさつは大切だと分かっているが、なかなかできない児童生徒が多い。
いじめはダメだと分かっているが、公正、公平に消極的な態度の児童生徒が多い。
- 4 **複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題**
友達に間違っていることを正直に伝えた方がよいか、相手のことを考えて黙っていた方がよいか悩み、どのように行動したらよいか判断できない児童生徒が多い。

児童生徒の道徳的価値に根差した問題は、発達段階や生活体験、道徳科以外の教育活動と関わっているため、授業の実施時期によって異なります。学級担任を中心に、日頃の児童生徒との関わりの中で、道徳的価値に根差した問題について、**どのようなことが身に付きつつあり、どのようなことが課題として残されているのか**を把握することが大切です。



参考文献

- | | | |
|---|----------|------|
| [1] 道徳教育編集部：道徳教育 2018年 9月号 | p68 - 70 | 明治図書 |
| [2] 平成28年7月22日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議：「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告） | p6 | |

教材の活用



教材の活用の仕方、大切なポイントは何ですか？

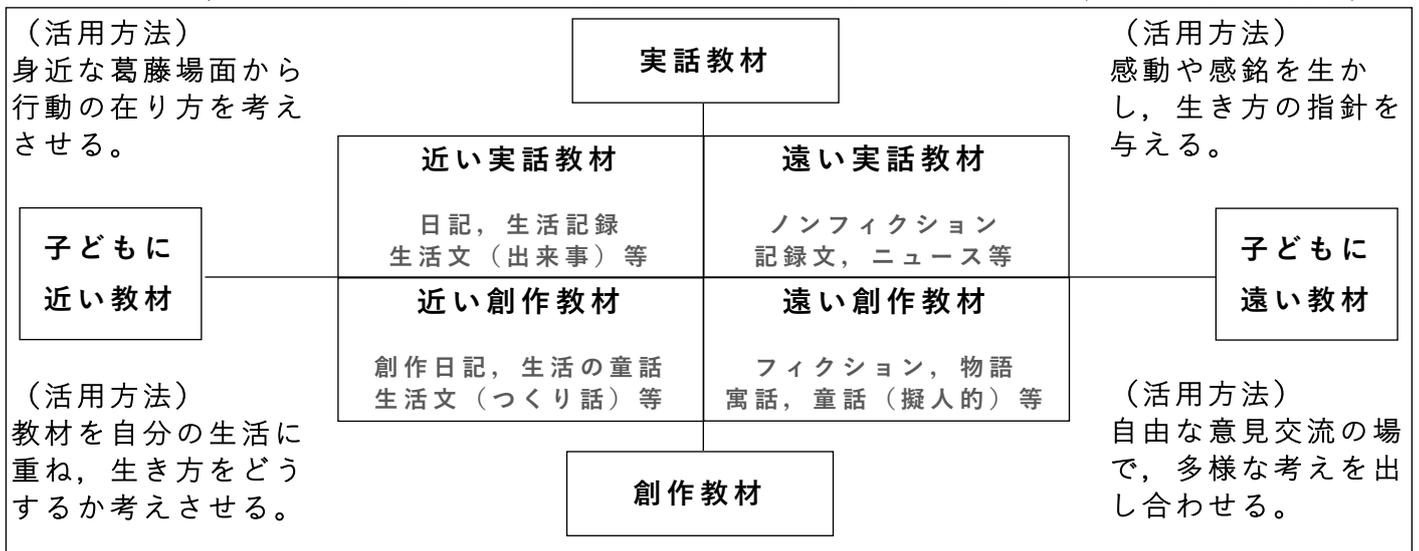
大切なポイントは2つあります。

- ①**教材の特質**を教師が捉えること、
- ②**教材のどの場面や発言等を取り上げるか**を決めることです。ものの感じ方、考え方は生活経験等によって一人一人違います。集団での話し合いを可能にするために、教材を共通の素材として使用します。教材に含まれる複数の道徳的価値について児童生徒に考えさせ、自分との関わりで道徳的価値を深めさせます。



①教材の特質を教師が捉えること

「教材群四タイプ」を参考にしてみましょう。教材が実話なのか創作なのか、また話の内容が児童生徒の生活経験に身近かどうかで分類する教材の特質の捉え方です。また、教材のタイプを意識することで、教材を効果的に活用する力を高めることにもつながります。(永田繁雄氏が提唱)



②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを決めること

「資料活用類型」を参考にしてみましょう。授業者である教師の意図や指導観による活用方法の分類です。同一資料同一学年でも指導者によって活用方法は異なるため、活用の意図や発問例が参考になります。(青木孝頼氏が提唱)

活用類型	活用の意図	発問の例
範例的活用	登場人物の行為を、望ましい行為の一つの範例として受け取らせる。望ましくない行為の例として扱う場合もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○の優れているところは、どのようなところですか。 ・～する(しない)○○の行動から、どのようなことを学びましたか。
共感的活用	登場人物の考え方、感じ方に共感させることによって、現在の自分の価値観に気付かせ自覚を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○に「～」と言われた時の、△△はどのような気持ちでしょうか。 ・この場面で、○○は迷っているようですが、どのようなことを考えているのでしょうか。
感動的活用	児童生徒が教材から受ける感動を特に重視しながら、ねらいとする道徳的価値の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・最も心を動かされたのはどこですか。また、その理由は何ですか？ ・○○は人間ではなく鳥であるのに、なぜみんなの心をこのように感動させるのでしょうか。
批判的活用	登場人物の行為や考え方を批判させ、話し合わせることを通して、道徳的な問題に対する考え方、感じ方を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○の考え方や行動について、どのようなことを感じましたか。また、それはなぜですか。 ・～しなかった周りの人たちについて、どのように思いますか。

教材の活用例 「二通の手紙」(東京書籍 新しい道徳3) C-(10) 遵法精神, 公徳心

(あらすじ) 動物園の飼育員である「元さん」は、動物園にやってきた姉弟を、入園終了時間後、保護者の同伴なしに規則を破って入園させてしまう。その後、閉園してもなかなか戻って来ない二人は、園内の雑木林で遊んでいるところを発見される。元さんは子供達の母親から感謝の手紙をもらうが、上司からも懲戒処分の手紙をもらい、自主退職する。

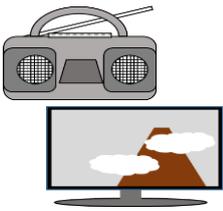
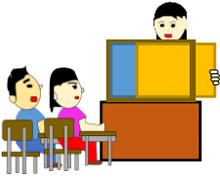
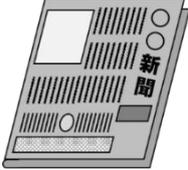
①教材の特質を教師が捉える

教材の特質	活用方法
創作であると共に、飼育員の話は子供から遠い話と言える (教材群四タイプ右下)	自由な意見交流を行う中で、「元さん」の行動について多面的・多角的に捉えさせ、規則を守ることの大切さや意義について深めさせる。

②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを定める

活用類型	活用の意図	具体的な活用方法と発問
共感的活用	姉弟を入園させた元さんに共感させ、自分との関わりで道徳的心情を捉えさせる。	元さんの心情を捉えさせると共に、自主退職した元さんの思いや行動について、考えを出し合い、きまりを守ることの大切さとともに考えさせる。発問「姉弟を入園させた時の元さんはどのような気持ちだったのでしょうか？」
批判的活用	元さんの行動を批判的に捉えさせ、元さんはどうすべきだったのか、考えさせる。	問題解決的な学習を取り入れ、ペアやグループでの話し合いを学級全体で共有する。なぜきまりはあるのかということについても考えを深めさせる。発問「姉弟を入園させた元さんの判断についてどのように考えますか」

教材を提示する工夫

 <p>教材の映像資料や音声資料を活用すると、イメージを持たせるとともに、興味・関心を高めることができます。</p>	 <p>資料の分割提示や部分削除、新たな場面の追加により意図的に議論を展開することができます。また、事前読みさせておくと考えの時間を確保できます。</p>
 <p>教材を劇や紙芝居形式にして提示したり、場面絵のみを見せて範読したりすると興味・関心を引くことができます。</p>	 <p>教材の補助説明で教材の理解を促す。また、ねらいとする道徳的価値に関する補助資料を用意し、価値を深める参考資料にする。</p>

参考文献

[1] 道徳教育編集部：道徳教育 2016年 9月号	p71 - 73	明治図書
[2] 道徳教育編集部：道徳教育 2020年 1月号	p53 - 61	明治図書
[3] 青木孝頼：道徳資料の活用類型 (1979)	p6 - 16	明治図書

教師の明確な意図



道徳科の授業づくりで大切なことは何ですか？

道徳科の授業づくりでは、**教師の明確な意図**を持つことが大切です。



教師の明確な意図とは
児童生徒に考えさせたい内容を
明らかにした**指導の方向性**のこと

内容項目の理解，児童生徒の実態把握，教材の活用の3点から
教師の明確な意図を持ちましょう。

教師の明確な意図の例 中学校 卒業文集最後の二行（文部科学省 わたしたちの道徳中学校）「D-(11) 公正，公平，社会正義」

✓ 内容項目「公正,公平,社会正義」の理解

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

→ **差別や偏見のない社会を実現する大切さに気付かせたい。**

✓ 児童生徒の実態把握

いじめをしてはいけないと分かっているが、ダメなことをダメと言えない等、公正，公平な社会の実現に消極的な生徒が多い。

→ **道徳的実践意欲と態度を育てたい。**

✓ 教材の活用

小学6年生の女の子が、服が汚いという理由で同級生からいじめの標的にされる。女の子は卒業文集最後の二行に、いじめに対する思いを込めた。

→ **卒業文集最後の二行「・・・私が一番欲しいのは母でもなく、本当のお友達です。そして、きれいなお洋服です」に込められた、いじめに対する思いについて考えさせたい。**

教師の明確な意図

いじめられていた女の子の心の痛みに共感させることで、いじめを許さない心について考えさせる。

「卒業文集最後の二行にはどのような思いが込められているか」を中心となる発問に設定する。いじめの被害者，加害者それぞれの立場でいじめについて多面的・多角的に考えさせる。

参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年	9月号	p68 - 70	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年	10月号	p68 - 70	明治図書

ねらいの設定



授業のねらいは、どのように設定すればよいの？

指導する内容項目と児童生徒の実態から、道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業をするのかを検討し、授業のねらいを設定します！



道徳性の諸様相に関する基礎知識

道徳性の諸様相とは、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳的態度のこと。様相は、一つ一つが独立しているものではなく、関わり合っている。よって、授業のねらいを設定する際も、必ず一つに絞るということではない。
例) 授業のねらい 「～道徳的心情を育てる」「～道徳的实践意欲と態度を育てる」

授業のねらいを設定する例 小学校高学年「B-(7) 親切, 思いやり」

1. 指導する内容項目の中から授業のねらいとする道徳的価値を明らかにする。
内容項目「親切, 思いやり」の中で、授業では、相手の立場に立って親切にするという道徳的価値について指導する。

小学校第5学年及び第6学年「B-(7) 親切, 思いやり」
誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

2. 児童生徒の実態把握から授業のねらいを設定する。

児童の実態把握	授業のねらい
相手の気持ちを考えることなく、何かをしてあげることが親切と捉えている児童が多い。	相手の立場を考えて親切にしようとする 道徳的判断力 を育てる。
親切にすることが大切と分かっているがなかなか親切にできない児童が多い。	相手の立場に立ち、進んで親切にしようとする 道徳的態度 を育てる。

ど う と く プ ラ ス

道徳性の様相を内容項目に当てはめると・・・

道徳性の様相を中学校の内容項目「礼儀」に当てはめると、例えば、以下の表のような道徳性の様相の具体的なイメージを持つことができ、授業のねらいを設定する際に役に立つ。

道徳性の様相	内容項目に合わせた道徳性の様相の具体的なイメージ
道徳的判断力	時と場に応じた適切な言動を判断する。
道徳的心情	自分から進んで礼儀にかなった行動をとると、相手と程よい距離を保つことができることのよさに気付く。
道徳的实践意欲	照れる気持ちやその場の状況に左右されず、尊敬や感謝等の気持ちを示そうとする。
道徳的態度	礼儀の意義や時と場に応じた適切な言動について主体的に考えて行動しようとする。

参考文献

[1] 道徳教育編集部：道徳教育 2019年 11月号 p68 - 70 明治図書

導入の工夫



導入で大切なことは何ですか？

主題に対する児童生徒の興味・関心を高めることです。「**考えたい**」と思わせ、**自分との関わりで考えさせる**ことが大切です。学習指導要領解説には、以下の2つが例としてあげられています。



導入には、本時の**主題に関わる問題意識を持たせる導入**、**教材の内容に興味や関心を持たせる導入**などが考えられます。下のイメージを参考にしてください。

導入のイメージ (例1：主題に関わる問題意識を持たせる導入)

授業の流れ「中学校 C-(13) 勤労」	
導入	○ 主題に関わる問題意識を持つ。 教師：働く上で大切なことは？ 生徒A：一生懸命働くことが大切です。 生徒B：自分に合っているか、または好きかどうかです。 教師：本当にそれだけですか？教材の主人公の行動を通して、働くことについて考えていきましょう。
展開	○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 ○物事を多面的・多角的に考える。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見詰める。
終末	○自分の持っていた価値観が、授業を通してどのように深まり、何が自分にとって大切なのか考え、児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。

「本当にそれだけですか？」と問うことにより、知っているつもりになっている価値観を崩し、児童生徒に、「他にどのような考えがあるのかな?」「自分の考えとの違いは?」「なぜなのだろう?」のような問題意識を持たせることができる。

指導の工夫例

例1：主題に関わる問題意識を持たせる	例2：教材の内容に興味や関心を持たせる
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活のアンケート結果を提示する。 学校行事等の体験学習を振り返らせる。 新聞やニュース等から時事問題を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で補足説明を加える。 教材の写真や場面絵、実物等を提示する。(ICT機器を活用するとよい。)

導入五箇条

- 一 **短時間で**
・三〇五分を目標にし、長くなりすぎない。
- 一 **全員参加を意識して**
・考える視点をそろえ、焦点化する。
- 一 **学びの喚起を**
・「考えたい」という意欲を高める工夫を行う。
- 一 **つながりを意識して**
・展開、終末を意識した発問や仕掛けを考える。
- 一 **学級経営を大切に**
・導入の雰囲気づくりは普段の信頼関係から。

展開の工夫



展開で大切なことは何ですか？

教材を活用し、教材に含まれる道徳的価値について自分との関わりで「**考え**」させ、様々な方法で「**議論する**」ことを通して、物事を**多面的・多角的に捉え**させることが大切です。

考え、議論した内容を基に、**自己を見つめ**、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めさせます。



展開では、児童生徒が導入で持った問題意識をどのように深めさせていくかが大切です。下に示した**展開のイメージ**を参考に、学習過程や指導方法を検討してください。

展開のイメージ

授業の流れ「中学校 C-(13) 勤労」	
導入	○主題に関わる問題意識を持つ。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 →自分の中の「働くことの大切さ」ことについて、登場人物に自分を関わらせながら考えさせる。 ○物事を多面的・多角的に考える。 →最後まで仕事をやり遂げた登場人物の行動には、どのような思いがあるのか、様々な立場や視点、角度から考えさせる。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見つめる。 →登場人物の思いや他の生徒の意見を聞き、自分ならどうするのだろうと再度考える。
終末	○自分の持っていた価値観が、授業を通してどのように深まり、何が自分にとって大切なのか考え、児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。

このような展開にするために

○教材のどこを中心場面として取り上げたらよいのだろうか？
→**教材の活用**へ

○多面的・多角的に考えさせる発問はどうすればよいのだろうか？
→**発問づくり**へ

○板書をどのように生かしたら、児童生徒の思考が深まるだろうか？
→**板書の工夫**へ

○表現活動を取り入れて、登場人物の心情を実感的に理解させるには？
→**道徳的行為に関する体験的な学習**へ

○どのように話し合いを設定すれば様々な意見がでるだろうか？
→**問題解決的な学習**へ

展開五箇条

一 時間配分を意識して

・中心となる発問や活動に時間が取れるように。

一 少数意見も大切に

・様々な意見を受け止め、生かす。

一 学びの交流を

・様々な活動を通して互いの学びを交流させる。

一 つながり意識して

・終末での深まりを意識した学習展開にする。

一 学級経営を大切に

・本音をぶつけ合い、本気で活動させるために。

終末の工夫



終末で大切なことは何ですか？

自分との関わりで考え、議論の中で出た多面的・多角的な考えを基に、**納得解を導き出させる**ことが大切です。
授業を通して**考えたことや学んだことをまとめ、今後の発展につなげ**させます。



児童生徒に、導入で持った問題意識がどのように深まったかを振り返らせます。価値を押し付けたり、決意表明をさせたりするような終末にならないようにし、**自己（人間として）の生き方についての考えを深め**させます。**終末のイメージ**を参考にしてください。

終末のイメージ

授業の流れ「中学校 C-(13) 勤労」	
導入	○主題に関わる問題意識を持つ。
展開	○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 ○物事を多面的・多角的に考える。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見詰める。
終末	○自分の持っていた価値観が、授業を通してどのように深まり、自分にとって大切なものは何か考える。児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。 生徒A：働く喜びを大切にしながら、自分のやりたいことを第一に考えて働きたい。 生徒B：好きな仕事をする事ばかり考えていた。これからは、 家族や地域に貢献 することも考えたい。 生徒C：みんなの意見や主人公の生き方はとても参考になったが、やっぱり 一生懸命働くことを大切にしたい 。

振り返りの視点

感想を書かせる時には
「何を感じたか」
「何を考えたか」
「何を学んだか」
「何が大切だと思ったか」
「これからの生かしたいことは何か」
等の視点を与えるようにする。

ねらいを意識した振り返りをさせたい場合の発問例

道徳的判断力

「あなたは**同じ状況に置かれたとき、どのようなことを大切にしたい**ですか」今日の授業を基に考えてみましょう。

道徳的心情

「あなたは**どのような気持ち**を大切にしていきたいですか」今日の授業で学んだことを含め、感想を書きましょう。

道徳的実践意欲と態度

今日の授業で学んだことを、「**これからの生活にどのように生かしていきたい**ですか」感想も含めて書きましょう。

終末五箇条

一 振り返る時間の確保を

・授業を振り返り一人一人が納得解を出せるように。

一 思考を深める工夫を

・説話や書く活動で思考を深め、考えを整理させる。

一 学びの共有を

・学んだことを互いに共有し、高め合わせる。

一 関連を意識して

・次の学習や諸活動につながる投げ掛けを行う。

一 学級経営を大切に

・自信を持って生き方につなげさせるために。

自分との関わりで考えさせる学習



自分との関わりで考えるって
どういうこと？

児童生徒がねらいとする道徳的価値について、**自分
の問題として受け止め、自分の事として考える
ことです。**



□自分との関わりで考えさせる学習の例

中学校 明かりの下の燭台（講談社 なせば成る！）「C-(15) 集団生活の充実」

導入	T	集団生活を充実させるために大切なことは何ですか。	日常生活や共通体験の想起 自分との関わりで問題意識を持たせます。 →導入の工夫へ
	S	・・・	
	T	<u>体育祭や新人戦の時を思い出して考えてみましょう。</u>	
	S	ルールを守る。	
	S	自分勝手に行動しない。	
展開	T	<u>マネージャーを頼まれたら、どのような気持ちになりますか。</u>	自分だったら… 登場人物の立たされた状況に共感させ、これまでの自分の体験から感じたり、考えたりしたことを基に考えさせます。
	S	選手として認めてもらえなくて悔しい。	
	S	選手としてプレーしたい。	
	T	<u>Aさんは、野球をしているけれど、全員が選手だったらチームは成り立つかな。</u>	意図的指名 児童生徒の実態把握から意図的指名をします。
	S	・・・(考え込む)	
	S	誰かが引き受けないと、困る。	
	T	<u>みなさんは、自分だったらマネージャーを引き受けますか。</u>	建前から自分事へ 自分の事として考えないと、建前で答えてしまうことが考えられます。自分の事として考えられるように発問の工夫をします。 →発問づくりへ
	S	選手になりたいから引き受けない。	
	S	わたしは、引き受けます。誰かがやらないといけないと思うので。	
	T	<u>集団のために、選手になりたいという気持ちは我慢しないといけないのかな。</u>	
S	・・・(考え込む)		

学習の中で児童生徒の以下のような様子が見られるといいですね。

- 教材の登場人物を自分に置き換えて考えているか。
- 教材の問題点を自分のこととして受け止めて考えているか。
- 日常生活や学校生活等を想起しながら考えているか。
- 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか。
- 自分だったらどうするかなど考えているか。



参考文献

- [1] 赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと P158-172 東洋館出版社
 [2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料

問題解決的な学習



道徳科における問題解決的な学習って？

単なる日常生活の問題に関する話合いではなく、**道徳的価値に根差した問題を解決するための話合い等**を行う学習のことをいいます。決まった型があるわけではありません。



☑ 道徳的価値に根差した問題を把握する。(→児童生徒の実態把握へ)

日常の児童生徒との関わりの中で、本時のねらいとする道徳的価値に根差した問題を把握する。
→きまりを守ることが大切と分かっているが、自分の事を優先させてしまい、きまりを守ることができない。

→時と場合に応じて礼儀にかなった行動をとることのよさに気付いていない児童生徒が多い。

※ 道徳的価値に根差した問題を把握するために、事前アンケート等を取り、導入で活用することも効果的

☑ 話合い等によって問題を解決する。

話合いの形態として、**ペアや少人数グループ等**が考えられる。

話合いでは、解決方法を考えることに終始するのではなく、自分だったらどのような解決方法がよいと考えているのか、その考えの根拠は何なのか等、児童生徒が問題を自分との関わりの中で考え、他者の異なる多様な考え方にも理解を示しながら、問題を解決するために必要な道徳的価値に気付くことができるような学習指導過程を構想することが大切です。

☑ 問題解決的な学習の例

小学校 ピアノの音が…… (東京書籍 新しい道徳6) 「C-(12) 規則の尊重」

道徳的価値に根差した問題の把握

休み時間、自由に過ごす権利はあることを知っているが、騒々しくすることで静かに本を読みたい友達の権利を守っていないことには気付いていない。

1. 導入

児童の実態把握を基に、道徳的価値に根差した問題を自覚させる課題を設定する。

お互いの権利を大切にするために、大事な思いや考えは何だろう。

2. 展開

教材の登場人物である女性とおじさんの自他の権利を尊重するために解決する場面を問題解決の場面に設定し、問題を解決するための話合い等を取り入れる。

発問1 「裁判を起こすと言ったおじさんの気持ちを考えよう」

発問2 「おじさんにうるさいと言われた女の人の気持ちを考えよう」

発問3 「**お互いの権利を尊重しながら解決する方法をグループで話し合しましょう**」

発問4 「二人を解決に向かわせた思いや考えは何か考えよう」

3. 終末

発問5 「**自分にとって**お互いの権利を大切にするために、大事な思いや考えは何だろう」

参考文献

[1] 赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと p172 - 184 東洋館出版社

[2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料

多面的・多角的に考えさせる学習



多面的・多角的に考えさせる学習って？

道徳科においては、多面的と多角的は、2つの言葉を合わせて意味をなすと捉えましょう。

多面的・多角的に考えさせる学習とは 道徳的価値に根差した問題を、一つの見方ではなく、様々な見方で考えさせたり、様々な角度から考察させたりすることで、道徳的価値についての理解を深めさせる学習のことです。

例えば、以下の **1** ~ **4** の4つの視点が考えられます。



多面的・多角的に考えさせる学習の視点

1 ねらいとする道徳的価値の様々な面から捉えて考えさせる

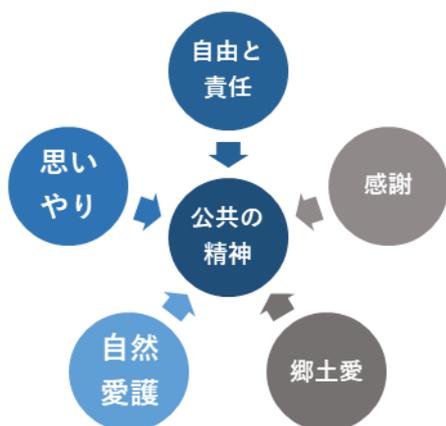
生命の尊さ

- ・ 偶然性
- ・ 有限性
- ・ 連続性 等

「生命の尊さ」を「偶然性」「有限性」「連続性」等の様々な面から考えさせる。

「生命の尊さ」に関するどの面について考えさせることができる教材なのかを教師が捉え、本時の授業の展開を考える。

2 ねらいとする道徳的価値を支える様々な根拠を考えさせる

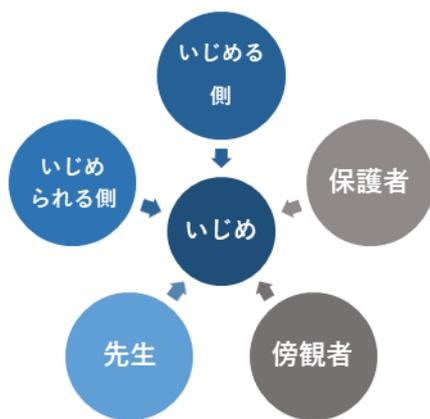


「公共の精神」を支える道徳的価値には、「自由と責任」「感謝」「郷土愛」「自然愛護」等、人それぞれ、立場や場面などによって様々な根拠があることを考えさせる。

発問例

「主人公が自分の生活を犠牲にしてまで地域のために尽くしたのはなぜでしょうか」

3 様々な登場人物の立場で考えさせる

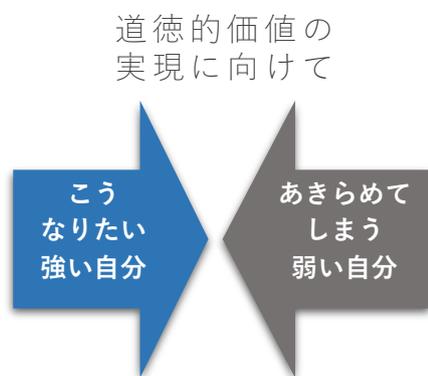


「いじめる側」「いじめられる側」「傍観者」等の立場で捉えて考えさせる。

発問例

「本当の友達がほしいという言葉には、いじめの被害者のどのような思いが込められているのでしょうか」
「大いなる悔いという言葉には、いじめの加害者のどのような思いが込められているのでしょうか」

4 人間の強さや弱さを捉えて考えさせる



あきらめてしまいそうになる心の弱さとこんな自分になりたいという心の強さを捉えて考えさせる。

発問例

「薬物に手を出さないと決めていた〇〇選手がドーピングをしてしまったのはどうしてでしょうか」
「自分からドーピングを認める発表を行ったのはどうしてでしょうか」

多面的・多角的に考えさせる学習のイメージ (4の例)

中学2年 内容項目「よりよく生きる喜び」 教材 「本当の私」東京書籍

1. 人間の“弱さ”について「ドーピングをしたのはどうして？」

以下、予想される生徒の反応

- ・ 周りにばれないと思ってドーピングをした。
- ・ どうしても試合に勝ちたかった。
- ・ 応援してくれている人を喜ばせたかった。

2. 人間の“強さ”について「自分からドーピングを認めたのはどうして？」

- ・ 自分を応援してくれている人にうそをついていることが辛かった。
- ・ 発表して周りから非難されることは怖かったかもしれないけれど、自分らしい生き方をしたかった。

3. 自己の生き方について「よりよく生きるとはどのような生き方？」(終末)

- ・ 自分の弱さに負けてしまってもそのままにしないで、もう一度自分らしい生き方を見つけること。
- ・ 一度苦しい思いをしてもあきらめずに挑戦していくこと。
- ・ 私も嫌だなと思うこともあるけれど、あきらめずに挑戦していきたい。
- ・ 辛いこと、苦しいこともあるけれど、その先に楽しいこと、嬉しいことを見つけたりすること。そういう気持ちを持って、生きる喜びをたくさん感じたい。

参考文献

- [1] 道徳教育編集部：道徳教育 2018年 11月号 p68 - 70 明治図書
[2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料

発問づくり



どのような手順で発問を考えていけばよいの？

まず、授業のねらいに深く関わる**中心的な発問（中心発問）**を考えます。次に、それを生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的に捉えるようにすると有効な場合が多いです。



■ 発問づくりの例 中学校 短文投稿サイトに友達の悪口を書くと（東京書籍 新しい道徳1） 「B-(8) 友情, 信頼」

【あらすじ】本教材は、同級生の悪口を「ネットに投稿してやる」と言い出した友達（イチロウ）を心配する、主人公（コウタ）の葛藤や行動を取り上げている。

【ねらい】友達の発言に対してはじめは同調した主人公が、次の日、友達に忠告するためにあわてて電話に向かわせたものは何かを考えさせることを通して、安易に友達の意見に同調するのではなく、お互いの幸せのために、正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てる。

○主な発問（◎中心発問）・生徒の反応例	発問の意図
<ul style="list-style-type: none"> ○ ネット上に人の悪口を書くと、どのようなことが起きるか知っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 炎上します。 ・ 訴えられて処罰されるかも知れません。 ○ コウタが、なかなか眠れなかったのはなぜでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ イチロウが心配になったからです。 ・ 自分の行動を後悔しているからです。 ○ もしも、あなたがコウタの立場だったら、イチロウに忠告することはできますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ できます。友達が、後で大変なことに巻き込まれないようにするためです。 ・ できません。仲が悪くなったら嫌だからです。 	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">教材の内容や、関連する知識を確認する。</div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">中心場面に向かうまでの、主人公の言動の変化が表れているところを取り上げ、その言動の背景にある道徳的価値について問う。</div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;">ねらいとする道徳的価値を実現するよさや難しさについて、自分との関わりで考えさせる。</div>
<p>道徳的価値を実現するよさや難しさについて、多面的・多角的に考えさせるための問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「できる」と答えただけで、もしも逆に文句を言われたらどうしますか。 ○ 「できない」と答えただけで、大切な友達が大変なことに巻き込まれてもよいのですか。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">◎ コウタをあわてて電話に向かわせたものは何だと思いますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達を良い方向に導いてあげたいという、思いやりだっています。 ・ これからもずっと信頼し合える友達でいたいという思いです。 ○ 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何でしょうか <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違ったことを注意し合ったりすることが大切だと思いました。 ・ 自分が言いたいことだけではなく、相手の話も聞いてあげることが大切です。 	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><中心発問> 中心場面で、主人公が、これまでの葛藤を乗り越えて実現させた行動の背景にある、道徳的価値について気付かせる。</div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;">自己の生き方についての考えを深めさせ、納得解を得させる。</div>

■ねらいに迫るための発問

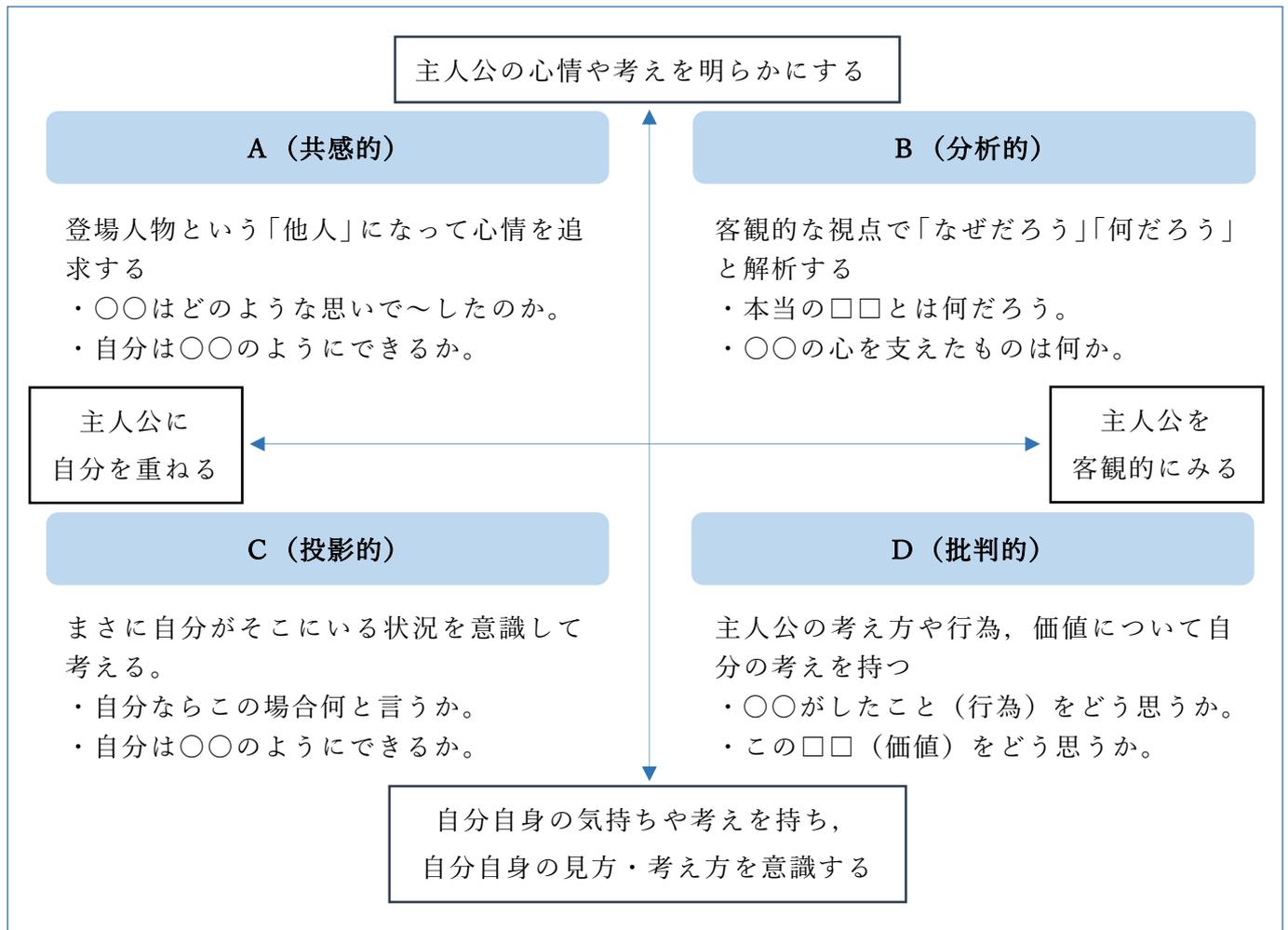
ねらいに迫るために、児童生徒の実態から道德性のどの諸様相を育てたいのかを明確にして発問を考える。

育てたい 道德性の諸様相	発問のポイント	発問例
道德的判断力	様々な状況の中でどのように対処することが望ましいかを考えさせる	「もし自分だったらどうするか」「〇〇はどのような行動をとればよかったのか」
道德的心情	登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えさせる	「〇〇はなぜ～したのか」「〇〇はどのようなことを思っていたのか」
道德的 実践意欲と態度	自己を見つめ、自己の生き方と結び付けてどのようにしていきたいか考えさせる	「〇〇が大事にしているものは何か」「今後〇〇はどのような生き方をしていくと思うか」

■多面的・多角的に考えさせるための発問

教材や登場人物に対して多様な立ち位置で考えさせ、児童生徒の思考を広げる

発問の立ち位置の4区分（永田繁雄氏による）を基に作成



参考文献

[1]	道德教育編集部：道德教育 2018年 2月号	p71 - 73	明治図書
[2]	道德教育編集部：道德教育 2019年 2月号	p7 - 9	明治図書
[3]	ベネッセ教育総合研究所：VIEW21 教育委員会版2017 vol.3	p21	Benesse

道徳的行為に関する体験的な学習



道徳的行為に関する体験的な学習にはどのようなものがあるの？

児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技させる**役割演技**，動きやせりふのまねをさせる**動作化**，教材の内容を劇の形に変え，脚本にしたがって演技させる**劇化**などがあります。ここでは，役割演技を取り上げ，説明します。



▶ 役割演技の目的

児童生徒の演技の背景には，本人が自覚していない道徳的価値についての考えが隠れています。演技後に，演技の内容を振り返ることで，道徳的価値への理解を深めたり，新たな気づきを生んだりすることができます。

▶ 役割演技の留意点

- 児童生徒が自分の考えを表現できる人間関係や学級の雰囲気が必要です。
- 内容によっては（例：いじめに関すること等），演技させてよいかどうか，検討が必要です。

▶ 役割演技の前に

- ふざけない，からかわない，演技が上手いかどうかは学習には関係ないこと，登場人物の心情を理解するための学習であることを伝えます。
- 演技をする場面（いつ，どこで，だれが，どのようなことをしているのか等）を明確に示します。

役割演技を取り入れた学習の流れ

役割演技をする場面までの登場人物の心情や行動の根拠等を問う

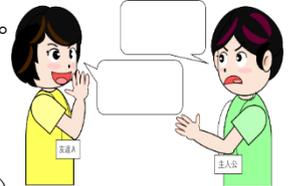
「うそをついてしまった主人公は，どうして本当のことを言えなかったのでしょうか」 等

中心場面で役割演技をさせる（葛藤場面や，道徳的価値を実現するよさや難しさに気付かせることができる場面）

「うそをついてしまった主人公は，どのような気持ちで電話を掛けたのでしょうか。
主人公が友達に電話をした場面を演じてみましょう」

■ 役割演技をさせるときの組合せ

- ・ 全員に役割演技をさせる（隣同士のペア，3～4人グループ）
- ・ 代表者にのみ役割演技をさせる（代表の児童生徒同士，代表の児童生徒と教師）



演技後に演技の内容を振り返らせ，道徳的価値について考えさせる

※ 演技の背景にある道徳的価値についての考えを全体で共有し，理解を深めさせるために，演技後の話合いが重要である。

■ 教師→観衆役の児童生徒

「演技中，〇〇さんはどうして～と言ったと思いますか」
「2人の演技を見て，どのように思いましたか」 等

■ 教師→演じた児童生徒

「演じてみて，主人公はどのような気持ちで友達に電話を掛けたと思いますか」
「演技中，～と言ったのはどうしてですか」 等

※ 終末で，授業を通して大切だと思ったこと，今後の生活に生かしていきたいことなどを書かせる。

参考文献

[1] 赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと	p184 - 200	東洋館出版社
[2] 道徳教育編集部：道徳教育 2019年 3月号	p13,15,51	明治図書
[3] 早川裕隆：体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業	p60 - 63	明治図書

板書の工夫



板書を生かすために重要なことは何ですか？

道徳科の板書は、児童生徒が**道徳的価値についての思考を深めるため**の重要な手掛かりです。思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることが大切です。



思考の深まりを意識した板書例

ホワイトボードの活用
グループでの話し合いがスムーズになり、視覚的に意見を共有できます。

ネームプレートの活用
児童生徒が立場を表しやすくなります。

「第〇回」
道徳科の量的確保につながります。

きまりは何のために？
みんなが安心して生活できるように
・自他の権利を尊重
・住みよい社会のため

グループ① の意見	グループ④ の意見
グループ② の意見	グループ⑤ の意見
グループ③ の意見	グループ⑥ の意見

○主人公はどうすべきだったのでしょうか？

「第〇回」
きまりについて考えよう
○「きまり」ってなぜあるの？
・ルールだから
・嫌な思いをしないように
・ないと困るから

○あなたが主人公なら相手に言いますか？
言う
・きまりだからちやんと伝えるべき
・自分が主人公なら言ってみよう
・友達だから言えないと思う。
・後から伝えればいい。

○主人公は主人公なら相手に言いますか？
言わない
・きまりだからちやんと伝えるべき
・自分が主人公なら言ってみよう
・友達だから言えないと思う。
・後から伝えればいい。

道徳的価値の深まり
終末に児童生徒の思考の深まりが分かるようにします。

心情円
個人やグループの立場を示す方法もあります。

黒板に書かせる
児童生徒の主体性が高まります。

思考を構造的に表す板書例

ウェビング（マップ）
関連したことをつなげて網のように発想を広げていく方法です。短い言葉で表現でき、自分の考えを表出しやすいほか、視覚的に分かりやすく、考えを広げたり、考えたりできます。

考えの類別
「友達を思う気持ち」と「自分中心の気持ち」を上下に分けます。

考えの対比
「言う」と「言わない」を左右に分けます。

紹介したものは、ほんの一例です。**ウェビングマップ**以外にも**座標軸**や**ベン図**、**マトリクス図**など、様々な**思考ツール**があります。学習指導案集「8 実践の記録」に実際の板書を掲載してありますので参考にしてください。

参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育 2017年 6月号	p34 - 35	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育 2018年 8月号	p38 - 39	明治図書

他の教育活動との関連



他の教育活動との関連について詳しく教えてください。

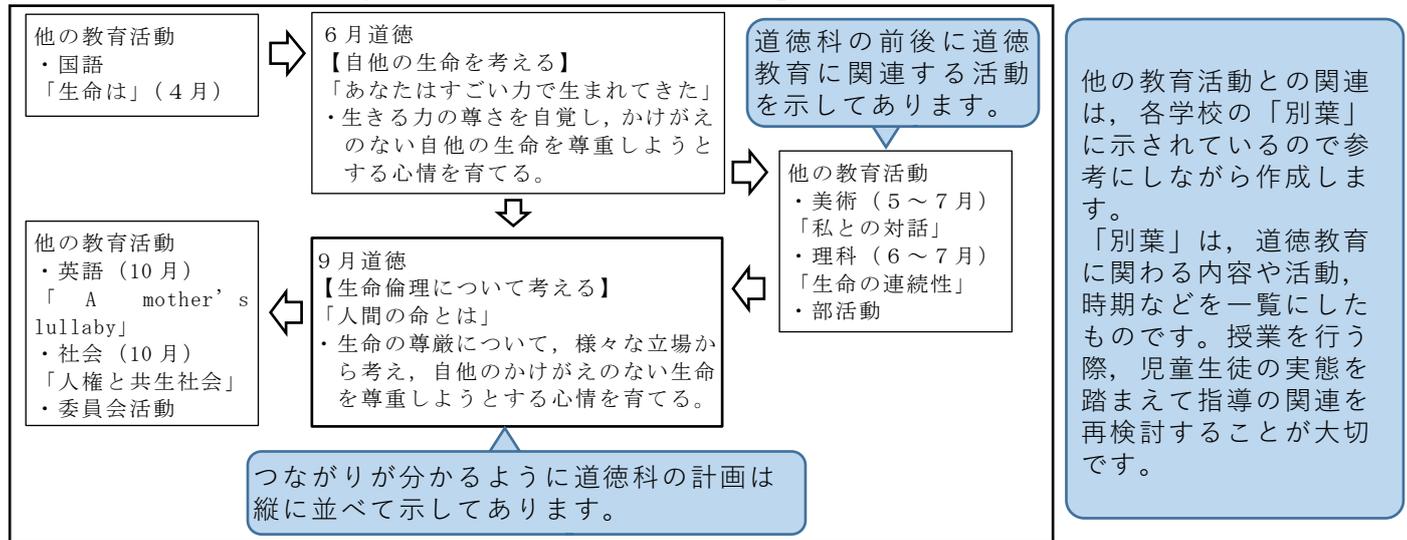
学習指導要領 第3章の第3には、「道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う**道徳教育の要**としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うこと」とあります。他の教育活動と相互に関連を図ることで児童生徒の道徳性を一層豊かに育むことができます。



▶他の教育活動との関連を意識した指導について

(小) 解説p.89,90 (中) 解説p.88,89

※学習指導案集の細案には、「5 他の教育活動との関連」に以下のように関連を示してあります。



他の教育活動との関連は、各学校の「別業」に示されているので参考にしながら作成します。「別業」は、道徳教育に関わる内容や活動、時期などを一覧にしたものです。授業を行う際、児童生徒の実態を踏まえて指導の関連を再検討することが大切です。

▶道徳教育の要としての「道徳科」について

(小) 解説p.10-15 (中) 解説p.8-12

道徳科が道徳教育の要として、**補充**、**深化**、**統合**の役割を果たすことができるよう、計画的、発展的な指導を行うことが大切である。いわば、扇の要のように道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割を持つ。(右図)
 ※学習指導案集の細案には、「6 補充・深化・統合の視点」として示してあります。



- 補充** → 各学年の道徳教育において、それぞれの内容項目が十分に扱われているものとそうでないものがある。取扱いが不十分な内容項目について、それを道徳科で補うこと意識する。
- 深化** → 各教科等における道徳教育は、それが主たる目標ではないため、掘り下げが十分とは言えない。児童生徒の実態を踏まえ、授業で扱う内容項目の指導を、道徳科でより一層深めることを意識する。
- 統合** → 各教科等における道徳教育で様々な体験をしていたとしても、それらの相互の関連までは意識しないまま過ごしてしまうことがある。授業で扱う内容項目に関わる様々な道徳的価値について、道徳科で関連を捉え直したり、自分なりに発展させたりすること意識する。

その他の教育活動における道徳教育	道徳科（統合の例）
<ul style="list-style-type: none"> 職業講話で働くことの意義を理解する。 職場体験活動で仕事のやりがいを体験する。 学級活動で自他の個性について理解する。 総合的な学習の時間に郷土について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を基に、地域のために尽くした主人公の思いや行動について考えさせる。 これまで学んだことを振り返りながら、「社会参画」や「個性の伸長」「郷土を愛する態度」などの関連についても考え、「勤労」の意義を捉え直させる。

道徳科の評価



道徳科の評価はどうすればいいの？

道徳科における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、道徳科の目標に照らし、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて**認め、励ます**視点から、**個人内評価**として記述します。その際、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とします。
※大きくくり・・・年間を学期で区切る等大まかな時間的なくくり。



■評価の基本的な考え方

1 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

- (1)道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉えようとしている。
- (2)自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- (3)道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

児童生徒のノート記述例

- ・役割演技でAさんとBさんの気持ちも分かるし、CさんとDさんの気持ちもなるほどと思うので、すごく悩みました。そして、授業の最後には、互いに気遣い、相手の気持ちを考えることが大事だとよく分かりました。(2)

2 道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか

- (1)読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりにイメージして理解しようとしている。
- (2)現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直そうとしている。
- (3)自己の取り得る行動を教師や児童生徒と議論する中で、道徳的価値の理解を深めている。
- (4)道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

児童生徒のノート記述例

- ・大事なことは、相手の気持ちを考えて冷静に話し合うことで、今までは、自分は考えを相手のことを考えずに言うてしまうことがあったので、そこを直した方がいいのかなと思いました。(2)

☑評価のための具体的な工夫例

授業では

- ・発言（座席表に記録）
- ・感想（道徳ノートやワークシート）
- ・質問紙の記述（ワークシート）
- ・板書を写真で残す

年間や学期を通じて

- ・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの。
- ・児童生徒が道徳性を養っていく過程での、児童生徒自身のエピソードを累積したもの。
- ・作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の成長を把握すること。

☑発言が多くない児童生徒や、考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒の見取り方

児童生徒が教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿から見取ります。例えば、他の教師と協力して、複数の教師が一つの教室を参観して児童生徒の新たな一面を発見します。

参考文献

- | | | | |
|-----|-----------------------------|------------|------|
| [1] | 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料 | | |
| [2] | 文部科学省：小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 | p107 - 114 | あかつき |
| [3] | 文部科学省：中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 | p109 - 116 | 教育出版 |

指導要録と通信票における道徳科の評価の違い



指導要録と通信票の評価の違いは何ですか？

評価の基本的な考え方は共通ですが、記述の仕方が異なる場合があります。



■ 評価の記述の違い

指導要録は、個々の教材、内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を記述します。

通信票は、難しい表現は極力避けて、児童生徒の学習状況や成長の様子が保護者に伝わるよう、分かりやすく記述します。教材名、内容項目、道徳的価値を記述してもよいかどうかは学校の判断とし、これらを記述する場合も、具体的な学習状況や成長の様子についての記述があるとよいです。

指導要録の記述例

（「多面的・多角的な見方」についての評価）

立場を変えて考えると、相手の気持ちがよく分かることに気付くなど、多様な視点から考え、今後の生き方についての考えに生かすことができました。

いじめの内容が扱われた学習を通して、いじめをしたら、加害者、被害者、傍観者がみんな嫌な気持ちになるということに気付きました。

（「自分との関わり」についての評価）

自分が主人公と同じ立場だったら、という目線で物事を考えていた。授業で考えたこと、学んだことを、これからの生活の中に生かそうとしている。

教材の主人公の立場に、自分を重ね合わせて考えています。思いやりについて考える学習では、相手の気持ちを察して行動することの大切さに気付きました。

（「自分との関わり」についての評価）

役割演技では、登場人物になりきって、素直な心を表出するなど、自分との関わりで学びを深める姿が多く見られる。

父母の立場になって役割を演じる授業では、家族が自分を支えてくれる愛情の深さに気付き、自分の果たすべき役割の自覚と、家族への感謝の気持ちが高まりました。

■ 評価の記述のNG例

「～を通して、道徳的判断力が高まった」・・・道徳性が育ったかどうかは評価しない。

「授業で学んだことを生かし、学校のきまりを守って」・・・道徳科の授業以外の学習状況を評価しない。

「役割演技を学級で一番一生懸命に取り組みます」・・・他の児童生徒と比較しない。

参考文献

- | | | | |
|-----|--------------------------------------|----------|---------|
| [1] | 鈴木明雄：主体的・対話的で深い学びを実現する
中学校「道徳科」授業 | p52 - 65 | 教育開発研究所 |
| [2] | 毛内嘉威：道徳授業のPDCA 指導と評価の一体化で授業を変える！ | p122-143 | 明治図書 |
| [3] | 服部敬一：「特別の教科 道徳」の授業と評価実践ガイド | p104-109 | 明治図書 |